

## ベトナムでの推進工法普及活動について

ヤスダエンジニアリング(株)  
専務取締役 安田 一成

## ① ベトナム進出のきっかけ

我々推進工法の専門業者として国内の環境は厳しくなってきました。公共事業の投資額が減少し、社会インフラ整備の成熟も相まって、また少子高齢化、人口減少とこの先明るい材料が少ない中このまま会社経営を行うには難しいと感じてました。

そこで弊社では、韓国や台湾などの市場に参入し開拓を行ってきました。だが韓国や台湾は、市場はあるのですが中途半端に推進工法の会社があり、技術力だけでは安定的な受注を行う事が出来ませんでした。

2010年6月、弊社の韓国法人の社長がベトナム人と知り合いになり、会社へ来ることになりました。そしてそのベトナム人が私に「一度ベトナムに行ってみませんか？」となり、ベトナムに行く事になりました。



ベトナム人パートナー チャン氏

たまたまベトナムに行く前日に、当時の前原国土交通省大臣が「ベトナムで下水道整備を行います。」とプレス発表を行ったニュースを見て「え！明日からベトナムだけど、日本国としてベトナムの下水道整備を行うんだ！！」と思い、ベトナムに火がつけました。

初めてのベトナムは、古い町並みではあったが、経済発展の雰囲気があり、建築中の高層ビルが多数存在していました。「ここで下水道整備を行うには、必ず我社の技術が必要だ！」と直感的に感じました。

## ② 国交省への訴え

ベトナムで推進工法の市場開拓に火がついたので、どの様に攻めていこうか考えてました。その時に我々の業界団体である、日本推進技術協会の石川専務理事に私の考えをお話しさせて頂きました。そこで協会として国交省との交流会を開催して頂く事になりました。その交流会では、当時の加藤下水道事業調整官と本田課長補佐が出席されてました。その交流会で私は「日本の推進技術は世界でもトップクラスであります。ですが、このまま日本にとどまれば、会社の未来は無いです。ですが推進工法の専門家は中小企業なので簡単に海外進出はできません。なので、何らかの形で支援を受けたいです」と訴えました。そこで初めて加藤調整官と本田課長補佐に、我々の現状を理解して頂く事になりました。

## ③ 国交省とベトナム建設省と下水道分野における技術協力覚書

2010年10月、本田課長補佐から「安田さん！国交省とベトナム建設省とで下水道分野における技術協力の覚書を交わす調印式を年末に行いますよ！！興味がありますか？もしあるなら、調印式の参加企業のリストに入れますがどうします？」とお話があり、私は二つ返事で「ぜひ参加させてください」と答えました。

私は国交省がこの様な事をベトナムで行うのかと非常に興奮し、さらにベトナム進出に対して火が付きました。

調印式当日、副大臣による調印式が終わり、日越で下水道セミナーが行われ、参加企業がプレゼンを行いました。推進工法のプレゼンは一番最後で与えられた時間は2分ほど、相手側も疲れ切った表情で推進工法の話聞いてました。そこで私の目に映った彼らの表情は、明らかに興味があるように映ってました。そして私は、ベトナム建設省の人間など全く分からないので、隣の席に座っていたベトナム人だけと名刺交換を行い、「後日、必ず会いに行くのでよろしくお願いします」とだけ伝えました。どこの部署の方か分かりませんが、建設省の人だろうと思いその場を後にしました。

そして帰国後、チャンにこの名刺の人にアポを取って会いに行こうと伝え、翌月会いに行きました。その方はハイ氏と言ひ、建設省を引退され都市計画を行ったり、専門誌を発行する公社にいる方でした。そこで私は推進工法のプレゼンを行いました。ハイ氏の反応は上々で、「ベトナムでは必ずこの技術が必要だ」と興味を持っていただきました。私は、推進工法のプレゼンを色んなところで行いたいので、協力してくれとお願いしました。



奥の赤色のシャツの方がハイ氏

そしてハイ氏が、「今私の上司がいるから紹介するよ！」という事で紹介して頂いたのがチン氏と言う方で、前の建設副大臣でありました。



チン前建設副大臣

のちに、彼の義理に息子であるウォック氏と全く別の場で知り合う事となり、「義理のお父さんのことを知ってるよ！」と言うとウォック氏はびっくりしてました。ウォック氏は清水建設の社員であります。

#### ④ ベトナム人推進工法研修会

2012年2月に国交省が推進工法研修会を行い、ベトナム建設省、ハノイPMB、ホーチミンUCCI、ハイフォン下水道局から4人が来日し研修を行いました。



当時の岡久部長と研修生4人とチャン

そこで私は、右も左も分からない彼らと2週間飲食を共にし、下水道整備やベトナムの経済発展について熱く議論を交わしました。

彼らが帰国後、すぐに私も訪越し彼らのもとへ感想を聞くべく訪問をし、その時に彼らの上司を紹介して頂きました。今では彼らがベトナムの下水道整備の中心人物であり、推進工法の規格基準作りを作成してるメンバーでもあります。

#### ⑤ 推進工法プレゼン行脚

ハイ氏より色んな方の紹介を受けながら推進工法のプレゼンを行いました。ただ相手がどのような部署なのかさっぱり分かりませんでした。とにかく弊社の推進工法の技術をプレゼンしまくりました。また、セミナーなどにも参加させて頂き、プレゼンの機会を与えて頂きました。それによって推進工法の認知度が上がってきました。



私とチャン

#### ⑥ 海外水インフラ PPP 協議会

ちょうどこの頃、海外水インフラ PPP 協議会という会が発足され、定期的に協議会が催されました。その時に各国の水インフラに携わる要人が来日され、この協議会に出席されました。その時にベトナムからは建設省インフラ局ティエン局長が出席されており、私はすかさず名刺交換を行い、翌週に会いに行く約束を致しました。

そして翌週に訪越し、ティエン局長にあらためて推進工法のプレゼンを行いました。ティエン局長からも「ベトナムでの下水道整備はこの技術が必要だ！」とおっしゃって頂けました。

#### ⑦ 推進工法の規格基準作成

推進工法は各地で認知してもらいましたが、実際に採用されるにはまだまだ障害がありました。現地からは「推進工法は分かった。ただ、実際に採用するに辺り規格基準が無い。また設計や積算も分からない、なので実際の金額も分からない」と言われました。

さすがに規格基準となると一中小企業が対応できる物では無いと思い、当時国総研にいらした森田様に相談を致しました。森田様に相談したのは、ただ単に以前から知っていると云うだけの単純な事でした。このような失礼な状態にもかかわらず、森田様はじっくりとお話を聞いて頂きました。そして「推進工法に関連する規格基準作成は国の仕事だ！」とおっしゃって頂き、現在の GICUS 中心の推進工法普及活動チームという形になりました。

そして 2013 年 3 月に、森田座長を中心としたチームで現地に赴き、各関係者に訪問し聞き取り調査を行いました。そこですべての関係者が、国交省に対して推進工法に関連する規格基準類の作成を要望いたしました。



推進チーム調査団

そして現在、国交省とベトナム建設省との間で推進工法に関連する規格基準を作成し基本版を提出いたしました。その後、改訂版を2015年10月のGG会議で提出されました。

弊社としては、今現在ベトナム人を雇い入れ日本の現場で人材育成を行っています。そして将来的にベトナムで現地法人を立ち上げ、そこに育成したベトナム人を雇い入れ、日本の技術を持ったベトナム人がベトナムのインフラ整備を行い、その利益を日本国に持ち帰り両国に貢献しながらビジネスを行えればと思います。